

### 調査目的・概要

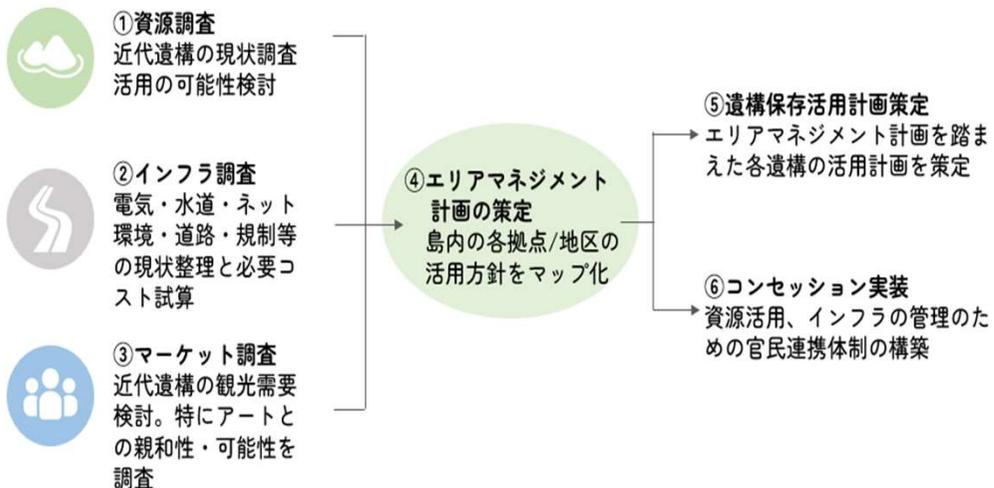
- ・無人島である大久野島において、大久野島全体の活性化を図ることを目的として、島内に所在する複数の近代遺構等について、インフラ面の整備を含め、民間の創意工夫を活かした利活用方法の検討調査を行う。

### 調査内容・スケジュール

#### ■調査の内容、進め方、特に検討する事項等

- ・管理主体が不明確になっている歴史遺産に官民連携手法を導入する。
- ・本調査では、官民の役割分担を明確にし、それを社会実装できる事業スキームと運営体制を検討し、実装する。
- ・本調査に基づき、来年度(令和8年度)には遺構の整備に着手し、令和9年度の施設公開等を目指す。
- ・同様の歴史遺産は全国各地に存在するが、放置され、廃墟化している。そうした遺産に官民が連携して文化的価値、社会的意義を付与する先導的な事例となる。
- ・一定の地域を官民で運営するエリアマネジメント手法が開発できることになれば、過疎地域等での事業モデルとしても活用できると期待している。また、本調査は、ひとつの島を単位とした取組であり、その社会実験のフィールドとして適している。

#### ■調査フロー



#### ■調査スケジュール

調査内容	6月	8月	10月	12月	2月
検討会	[黄色いバー]				
資源調査	[黄色いバー]				
インフラ調査		[黄色いバー]			
マーケット調査			[黄色いバー]		
エリアマネジメント計画策定			[黄色いバー]		
遺構保存活用計画策定				[黄色いバー]	
コンセッション実装				[黄色いバー]	
報告書作成					[黄色いバー]

## 事業・施設の概要

- 対象事業/対象施設: 大久野島 近代遺構/自然資源
- ・瀬戸内海国立公園に属する無人島。「うさぎ島」として認知を獲得。
- ・明治期に要塞化。その後戦中極秘で毒ガス製造工場が稼働。
- ・現在もその当時の近代遺構が残り、利活用されていない。



参考URL <https://www.city.takehara.lg.jp/material/files/group/1/isekimeguri.pdf>

### ■想定スキーム

- ・島全体の活性化のためには、複数の近代遺構の利活用はもちろん、島のインフラ(水道、電気、通信)等の整備が合わせて必要。
- 民間の活力を観光に生かすスモールコンセッション方式
  - ↳近代遺構について民間の創意工夫を最大限に生かした事業運営
- 官民連携による運営体制の構築
  - ↳島をマネジメントする組織の検討と社会実装
- 観光振興をインフラ管理に還元する訪問税もハイブリッドで導入
  - ↳エリア全体の価値向上のため、遺構に加え地域インフラまで管理

## 事業・施設の課題

- A【モノ】離島のインフラ老朽化/近代遺構の老朽化
  - ・離島かつ無人島ゆえにインフラ面の整備が追いついておらず老朽化。
  - ・明治期、昭和期の戦争関連遺産が複数残るも、文化財等に指定されているわけではないため風雨による劣化が深刻。
- B【ヒト】民間の活力を生かす体制不足
  - ・保全の為に早急に活用が必要だが、民間活力の導入が遅れている。
  - ・遺構や施設にかかるコストや、具体の活用方針の検討が不足。
- C【カネ】持続可能な地域運営のための資金確保
  - ・遺構のリノベ費用、維持管理費用を、行政依存で捻出することは困難。
  - ・遺構に留まらず、インフラ全体の維持管理もままならない。

## 検討経緯／事業化スケジュール

### ■検討経緯

- R1年度 第6次竹原市総合計画にて大久野島の地域資源を大切に守りつつ磨きをかけることを明記。
- R4年度 観光地域づくり法人竹原観光まちづくり機構(DMO)組成。地域づくりのための官民連携を推進。観光における重要拠点である大久野島の戦略策定を開始。
- R5年度 観光庁歴史的資源を活用した観光まちづくり推進事業(DMO実施主体)に採択。大久野島の持続可能な観光まちづくりについての検討を実施。民間の活力を生かす方向性と訪問税導入の方向性が提示される。
- R6年度 竹原市から訪問税導入の意向を環境省地域事務所に説明。

### ■事業化スケジュール

- R7年度 資源調査、インフラ調査、マーケット調査、エリアマネジメント計画策定、遺構保存活用計画策定、コンセッション実装、訪問税導入の検討。
- R8年度 島運営体制の構築、遺構整備に着手。
- R9年度 遺構・インフラの施設公開等開始。
- R10年度～ 他の遺構等に横展開。